

令和7年度

浜田港新型インフルエンザ検疫措置 総合訓練(部分訓練)への参加

感染管理認定看護師
渡邊 正美

令和7年9月2日(火)に浜田港新型インフルエンザ検疫措置総合訓練の部分訓練に参加しました。この訓練は、浜田港検疫感染症対策・港湾衛生管理協議会構成員により、検疫感染症等の国内への侵入、まん延防止を図ることを目的に開催されます。

訓練は、「X国で鳥インフルエンザ(H5N1)のヒトからヒトへの感染が急速に拡大したため、WHOがPHEIC(国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態)を宣言し、日本政府は対策本部を立ち上げ、各県の感染症指定医療機関が受け入れ体制を整えた想定」で始まりました。

日本海沖でX国に寄港していたクルーズ船の乗客が発熱などの症状が出たことから、近隣の浜田港域外でクルーズ船を待機させ、巡視艇で臨船し検疫を実施します。そして

検疫所から当院へ有症状者の搬送依頼の電話があり、関係部門への連絡、発熱外来の準備や受け入れ手順、PPE(個人防護具)の着脱について訓練しました。

訓練後の反省会では、「患者を車いす型アイソレーターで搬送車から発熱外来内への搬送時に、屋外で待たせる場面があったので常に2人で搬送する必要がある」また、「PPEを脱ぐ順番に検疫所と若干の相違があったが、最終的には手指消毒を行うことで自分自身を感染から守ることができる」ことなどを意見交換しました。

新型インフルエンザ等の未知の感染症対応は、猛暑や雨天など様々な天候のもとでも発生します。どんな状況であっても、受け入れ時の連絡体制の確認と同時に、患者の状態を第一に考えて対応することを忘れずに、合同訓練を定期的に行うことが大切だと思いました。



松原小学校の生徒さんたちから お花の贈呈がありました！

庶務班長
岡本 誠司

2025年7月15日(火)に浜田市立松原小学校から「人権の花運動」の一環で育てられたお花を贈呈していただきました。

「人権の花運動」は、育てる活動を通して命を大切にすることを学び他人を思いやる心をもつこととともに、自分たちで育てたお花を観賞したり地域の施設に届けたりすることで豊かでやさしい心を育むことを目的としているとのこと。

昨年度以前もお花を学校で育てていたとのことですが、今年度はじめて地域の施設にお花を届けることになったそうです。

贈呈当日は生徒さん2名と校長先生に当院に来院いただき、人権の花運動に取り組まれた経緯などのお話を当院の院長が伺いました。生徒さんのお話の中で、浜田医療センターや来院されたみなさんが笑顔になってほしいとの思いをこめたとのこともありました。

約1か月半の期間、当院の正面玄関横に設置させていただきましたが、ケイトウのお花がぐんぐんと育つ姿を見るのが

楽しになったという声もあれば、マーガレットのお花が少し萎れている姿を見て心配される声もいただきました。いつしか松原小学校の生徒さんたちから贈っていただいたお花が当院の職員や当院を来院される方々の一つの関心事になっていたと思います。本当にありがとうございました。

